



第1回 京都気候変動適応策の在り方研究会

京都市の適応策の取組

京都市 環境政策局 地球温暖化対策室

**京都市地球温暖化対策計画に、
適応策の基本的な考え方を記載**



**次期計画策定に向け、更なる具体化を検討
(現行計画は2020年度まで)**

基本方針

- ① 気候変動やその影響に関する科学的知見の情報収集を行う。
- ② 分野によって気候変動の影響の重大性や対策実施の緊急性が異なることを認識し、国や京都府等と連携し、効果的な対策を推進する。
- ③ 市民、事業者、各行政分野と情報共有し、理解と協力のもと、連携体制を構築する。

全庁的な連携

京都市長を本部長とする地球環境・エネルギー政策推進本部の下に2017年7月に「**適応策推進部会**」を設置。科学的知見等を全庁で共有。

情報収集

科学的知見の情報収集（近畿地域適応広域協議会、日本ヒートアイランド学会など）。指標やモニタリング等により市域における影響を把握。

施策の進行管理

中長期的な視点で柔軟に施策を推進。

現時点から具体的な対策を進める分野

自然災害

健康・都市生活

水環境・水資源

今後、気候変動の影響の把握や対策の検討を進める分野

農業・林業

自然生態系

伝統文化・観光・地場産業

自然災害

大雨による河川氾濫、土砂災害や、いわゆるゲリラ豪雨による都市型洪水の発生が懸念されます。

対策の方向性

- 河川改修や雨水幹線の整備等による浸水対策の推進
- 雨水流出抑制施設の整備や浸透域の保全等による貯留・浸透対策の推進
- 排水機場・雨水ポンプ場等による内水対策の推進
- 防災情報の収集・伝達，避難誘導體制等の整備
- 水害対応のための初動体制，水防体制の充実
- 土砂災害警戒区域等の指定の促進及び土砂災害ハザードマップづくりや，それに基づく訓練の実施

- ・ 防災情報システム及び防災行政無線の整備
- ・ 避難所運営体制の充実
- ・ 水害ハザードマップの更新
- ・ 市営住宅への雨水貯留槽の設置や敷地内への透水性舗装の導入
- ・ 都市基盤河川や普通河川の局地的豪雨を想定した整備
- ・ 八幡市，長岡京市，久御山町，大山崎町と共同での水害対策。
- ・ 市内全学区での防災訓練や，学区の特性に応じた「防災行動マニュアル」の策定の支援
- ・ 雨水幹線の整備
- ・ 「京都市国土強靱化地域計画」や策定中の「京都市レジリエンス戦略」などに基づく，災害に強いまちの実現に向けた全庁的な取組の展開

健康・都市生活

気温の上昇により、熱中症や感染症の患者増加が懸念されます。都市部では、気候変動による気温上昇に、都市化によるヒートアイランド現象が重なることで大幅に気温が上昇することが懸念されています。

対策の方向性

- 熱中症予防，感染症予防への啓発
- 「クールスポット」への誘導
- 都市緑化の推進
- 「打ち水」の実施拡大
- 「ミスト装置」の普及促進

- ・ 高齢者世帯への個別訪問によるチラシの配布やコミュニティラジオと連携した周知啓発などの熱中症対策に係る各種広報活動
- ・ 区役所の一角のクールスポットとしての開放や，入場料金の値下げなどによる誘導などのクールスポットの活用促進
- ・ 民有地で緑化を行う市民・事業者に対する支援制度や街路樹の少ないエリアへの植栽などの緑化の促進
- ・ 区役所等での打ち水の実施
- ・ ドライミストの京都駅前バス乗り場等への設置や保育所等への配布

水環境・水資源

水源である琵琶湖の水質悪化が懸念されます。

水資源への影響として、琵琶湖の渇水リスクの増大や、河川伏流水の減少、井戸水位の低下等、山間地域の水道水資源が枯渇することが懸念されます。

対策の方向性

- 「京都市水道事業水安全計画」の定期的な検証見直し
- 水質管理の手順書や対応マニュアルの体系的な整備
- 水道原水の水質監視強化
- 連絡管の整備等による広域的な水運用の検討
- 下水の高度処理の推進と合流式下水道の改善

- ・ 琵琶湖第二疏水取水口の24時間連続監視
- ・ 処理効率を高め、放流水質を改善するための、伏見水環境保全センターにおける高速ろ過設備の整備
- ・ 大雨時の汚水の河川放流対策のための、津知橋幹線など下水道での貯留機能の整備
- ・ 市立中・小学校等への雨水タンクの設置による雨水の有効利用や流出抑制

今後、気候変動の影響が懸念される分野

農業・林業

気温の上昇により、農・林作物の品質低下や生育障害の発生頻度の増加等が見られ、今後も、農業生産への影響が懸念されます。

自然生態系

気候変動以外の要因も関係する可能性がありますが、ナラ枯れ、マツ枯れなどの森林病害虫被害の増加や、シカの個体数増加に伴う生態系への影響が懸念されます。

伝統文化

祇園祭のチマキザサや、葵祭のフタバアオイが減少しつつあるなど、伝統文化への影響が危惧されます。また、寺院等の景観を構成するコケ植物について、これまで以上の維持管理が必要となる可能性があります。

観光

文化的景観や伝統的な借景が失われることが危惧されます。また、紅葉の色づきの悪化なども危惧されます。

地場産業

西陣織や京友禅の染料、京料理の食材や京野菜、清酒の醸造などは、素材や製法に影響が及ぶ可能性があります。

- 京都の祭りや文化を支えてきた生きものの保全・再生の取組を認定し、必要に応じて技術な専門家を派遣する「京の生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度」の実施。